

2016年5月2日

関係各位

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会
幹事会

熊本地震 初動としての活動を終了します
(ご協力ありがとうございました)

4月14日熊本県で発生した地震は、4月16日未明にさらに大きな地震(本震)があり、被害が大きく広がりました。現地では、いまなお大小の余震が続き、約3万人もの方々が避難生活を余儀なくされておられます。

21・老福連は、16日に「いきいき八田」(福岡市)に支援活動の「救援現地本部」を引き受けていただき、全会員に支援の要請を行いました。いきいき八田では、救援物資の受け入れ・仕訳け、支援活動者の宿泊、炊き出し準備、「震災救援活動ニュース」を会員に発信するなど、連日の活動の中軸としての役割を果たしてくださいました。

連日の往復便で物資を運び、炊き出しを行った被災現地では、「いま欲しかったものを届けてくれてありがたい」「温かいものを久しぶりに口にできた」など、喜んでいただけました。

本震から、10日が過ぎましたが、熊本の会員施設およびその地域の被災状況は、まだまだ深刻な状況が続いています。一方で、地域にはボランティアセンターの開設をはじめ、民医連、老施協等の他組織の活動も活発化してきています。また、宅配便の一部熊本県内の配送の再開などのニュースも入ってきました。

21・老福連は、①救援物資の送付活動(4月21日付で要請終了)、②救援物資の搬送活動、③炊き出し活動(4月23日付で一旦終了)、④カンパ活動を提起してきましたが、こうした状況の中で、カンパを除く、21・老福連単独での初動としての支援活動については、終了し、関係各団体の支援活動に各会員施設が合流していくこととしたいと思っております。皆様のご協力に改めて御礼申し上げます。

今後の支援活動につきましては、被災地の皆様の意向などをお聞きしながら検討をして参ります。関係者のみなさまに急なお願いをすることも出てくるかと思っておりますが、引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。